



平成 30 年 1 月 20 日、交流センターホールにおいて防災住民意見交換会が開催され、桜ニュータウンから 25 名の参加がありました。つくば市からは危機管理課の鬼塚課長補佐と鈴木主事の 2 名に来ていただき、防災をテーマに出張講座を開いていただきました。

その後避難所について意見交換会が行われましたので、その概要をお知らせいたします。

つくば市危機管理課による基調講演の概要

*災害時の被害を最小限に抑えるキーワードは「自助・共助・公助」であるが、災害が大きくなるほど公助は機能しなくなる。

*つくば市は災害が起きるとまずは被害状況を把握する、その状況を見て避難所を開設するので震度がいくつになったら自動的に開設するというわけではない、そのあと破損個所の復旧と情報の収集と発信ということになる、市役所の人間が救助に当たることはほとんどない。

*備蓄は小中学校に防災倉庫が置いてある、ここに最小限の食料（クッキー）とペットボトルの水、それと生活用品や資機材等必要物品が置いてある、組み立て式給水タンクもあるが、問題はつくば市には給水車が 2 台しかないので自衛隊に頼ることになる。



*学校は避難所としても使うが、物資の配給や給水・情報伝達の拠点として位置付けている、体育館は構造的に弱いので地震の場合には基本的に避難所としては使用しない。

*建物の被害は震度 6 弱程度だと全壊でも 1 割に満たないが、6 強になると昭和 56 年の新耐震基準以前の建物は 3 割以上の建物が全壊に至る。

*避難所の機能としては、居住スペースとして市では 3m²/人 通路は 1m 程度と考えている、その他共有スペース、ミーティングスペース、受付、プレイルーム、トイレ、更衣スペース、授乳場所等多岐にわたる。（広岡交流センターで居住スペースとして使えるのは、ホール 60 m²、和室 51 m²、会議室 62 m² 収容人数約 50 名 3m²/人の場合での算出値）

*避難所の運営は市の職員はできないので、住民の皆さんにやってもらうことになる。

*広岡交流センターは新耐震基準後の昭和 57 年にできており、鉄骨構造なので安全である。

*ほとんどの家屋が倒壊したら、市としてもどこに避難してもらうか分からないが、一部の家屋がつぶれて住むのが難しいということになったら、なるべく近くの避難所を開設したい。

*避難所を開設すると物資を届けなければならない、小中学校だけで 54 校ある、そこに配送するのが目いっぱい、被害が大きくなれば 15 校の中学校にしか届けられないかもしれない。そのようなとき広岡交流センターまで届けるのは非常に難しくなるので、学校まで物資を取りに来たり情報を取りにきたりすることは各避難所で体制を整えてほしい。

*避難所では防犯が重要であるので、受付を設け避難者の方には名札をつけてもらうことが必要になってくる、避難所に入れる方は名札をつけている方のみにする。

- *避難所運営では配給、受付、掃除、見回り、広報などといった作業分担が必要になる。
- *家庭備蓄としては、食料、日用品は少し多めに備えておき、購入・備蓄・消費を繰り返す。
- *常用薬は無くなる前に用意し、お薬手帳は持っている処方せんがなくても薬を出してもらえるので持っているのが良い。
- *防災情報の収集はラジオつくば FM84.2MHz、茨城放送 AM1458khz・FM94.6MHz などがある。その他防災アプリとして、つくば市災害通知メール、Yahoo 防災速報アプリ、NHK ニュース・防災アプリ、その他 NHK データ放送（1ch の d ボタンで）もある。

市危機管理課からの当日の配布資料を、広岡交流センターに若干数用意してあります。なお、PowerPoint をお持ちの方は自主防本部に請求いただければファイルをお送りいたします。



つくば市災害通知メール

参加者による意見交換の概要

危機管理課への質問の後、防災長より防災計画の見直し案についての説明があった。

その後「災害時における避難所の運営」をテーマに意見交換が行われ以下の意見が出た。

- *避難所運営を自治会役員が中心になってやっていくのはいいのではないか。
- *（危機管理課へ質問）災害時、市からの連絡がいくとしたら区長宛になるということだが、そういう意味で区長・班長を中心に避難所運営をしていくということについてはどうか。
- *（危機管理課から回答）全員が避難するというのであれば区会中心にやっていくというやり方もあるが、もし区長宅が被災していないと区長が避難するということはない、すると実質的には避難した人でやるしかないのではないか、小学校のような場合は区会合同で運営するとか、広岡交流センターの場合には自分が被災していなくても手伝いに来て運営するというのいいのではないか。
- *避難した人が運営するというのでは初動が遅れる恐れが高い、考え方としては自治会が平常時においても避難所運営と関係した活動をしているので、まずは基本的には自治会が中心に動くことにしておいて、すぐに動ける体制を作っておく必要があるのではないか。実際には災害時、誰が動けるかは事前に想定できないので、避難した人も避難所運営に従事しなくてはならないだろうが、平常時からすぐに初動を取れる体制を整えておくことは大切ではないか。
- *NHK で見たが、災害の時に避難所に最初に来た人が何も分からなくてもインストラクションが書いてあり、やる事が分かるようになっている。災害の時に誰が何をやらなくてはならないということではなく、あくまでも運営していくのは避難してきた人たちなので、その中に知識がある人もいるであろうから、そういう人たちが避難所の運営をしていくようになる。避難してきた人で動ける人がやるというのが合理的だと思う。

桜ニュータウンの防災員として、あなたを必要としています！

※防災員としてご協力をお願いします。協力いただける方は、下記宛にお名前と班名、メールアドレス（あれば）をご連絡いただきますようお願いいたします。お待ちしております。

（連絡先）防災長 阿部 真庭（中央6班） または 自主防災組織本部 snt_bosaihq@smacon.info

自分の命は自分で守る 我々の街桜ニュータウンは住民みんなで守る